

「唐丹町 116 人の子ども支援ツアー」報告 2

—私が見た唐丹町—

「3度目の訪問」



今回、昨年12月、今年3月に続いて3度目の唐丹訪問となった。釜石に行く前に、ここも巨大津波の犠牲になった町の様子を見たくて、気仙沼と陸前高田を訪れた。

陸前高田の瀕死の一本松、外見は白亜の立派なビルだが、内部はがれきばかりで、立ち入り禁止のキャピタルホテル。海辺に近い市役所、市民病院など行政、医療の中枢部が壊滅し、地盤沈下も加わった陸前高田市の復興はどうなるのだろうか。

宿泊予定の気仙沼市。現在廃線の「鹿折唐桑」駅を目隠しするように大きな漁船が打ちあがっている。途中の民家を押しつぶしながら津波に運ばれてこの場所に運ばれてきたそうだ。すぐ近くに住む奥さんは、保存なんてとんでもない、この船が憎らしいと言う。

釜石では復興しつつある漁港、復興した旅館（宝来館）など明るい兆しの見える場所を案内してもらった。しかし、訪れた2か所の仮設住宅での生活は快適とは程遠い。長谷川さんの旧宅で解散式をやったが、10数人ぎっしり座ったその部屋は、家具が一切なくて、まるでお茶室のようだね、と話し合った。ここに家具、寝具、衣類、こまごまの生活用具が山と置かれ、家族3人が暮らしていた。解散式に参加された仮設住宅の方々は、私たちの支援に感謝を述べられていたが、私たちの方が支援させて頂けることに感謝したい。

同じように津波の被害を受けた地域でも、町の構造、立地条件によって被害の大きさ、深刻さなど様々であることを、今回の訪問で学んだ。

「東北」に連帯しよう、怠惰な自分であることをできるだけ止めようと心に決めた。

堀玉江（群馬県前橋市）

「百聞は一見にしかず」

高木 道子 群馬県高崎市



被 災地を目の当たりにして、本やYouTubeの映像で「わかったつもり」が消し飛びました。さまざまな体験と思いを胸にしまって何事もなかったかのように授業に打ち込む子供たち、夢を描き、目標を持って前進してほしいと思いました。

も ちろん、それを支えるのは大人たちの役割、1000年に一度の防潮堤作りに多額の税金をつぎ込むより、今、生きるために必要な生活

再建の道筋をつけ、地域の産業復興に投資し、地域が潤い自立できる支援をしてほしいと痛感。

放 射能を恐れて逃げ回っていたという地元出身の「大物」議員、離党して政党助成金をまたまた懐にするのかと思うと情けないやら腹が立つやら。身を切る改革？、率先垂範してみてはいかがでしょう？ どこかの仮設で一週間でも10日でも生活して、地域の人々と膝詰め談判してみてはいかがでしょう？

（福島「黄門様」も、プルサーマル容認の知事を格さんに従え、原発推進の愚を謝る行脚に出かけ、再稼働容認の非を説いて回るのが今のお仕事と思いますがね）

長 谷川さんのお宅もすべて波に浚われ、後日唯一見つかった大漁旗を、5月の鯉のぼりの代わりに掲げたと伺いました。美しい海がかえって恨めしい、とも伺いました。

風光明媚、白砂青松のリアス式海岸の入り江の奥深くまで津波は容赦なく押し寄せ、人々の日常

を根こそぎ奪いました。

隣の地区まで峠を越えて狭い道を移動するには車がなければ身動きもままならず、廃校の小学校の庭に建てられた仮設で身を寄せ合って暮らす皆さんにいただいた昆布は、味をかみしめながら大事に大事にいただきます。

釜石の奇跡と言われる99%超の小中学生の命を救った防災教育の成果を生かして、「生きていて良かった、日本の大人は信頼に足る」「大人になったら地域のため、日本のため、世界のために働く人間になりたい」と子供たちに思ってもらえることこそ大人の務め、口で言うほど簡単ではないことは百も承知で九牛の一毛になるため暗中模索して行きます。

一人は**みんな**のために、**みんな**は一人のために。

「ショックと決意



と」

今回の旅行で大きなショックがいくつかあります



す。

1. 陸前高田も大槌も、前に来たときと何も変わっていなかったことです。津波危険地域で、どう町を再建するのか、どこに作るのか、国の方針が決まらないために、町は動けないのかもしれませんが。それにしても、変化がなさ過ぎます。

2. 南気仙沼駅の周辺にはびっくりしました。「ここが駅ですよ」と言われても、ホームがあるだけで線路もなく、しかも駅周辺には何もありません。私たちは夕焼けを背に呆然とするばかりでした。

3. 鹿折唐桑駅前の大きなマグロ漁船には、言葉もありませんでした。住民の女性は、この船が家をなぎ倒してくるのを見ているので、思い出していやだ、早く撤去してほしい、と言っていました。そこらじゅうで震災被害の象徴になるようなものが、「住民感情を尊重して」どんどん消え去って行くのは問題です。歴史的な観点から、残せるものは残すべきではないでしょうか、第五福竜丸のように。

逆に勇気が出たのは、唐丹の人々のがんばりで、何とか少しずつ前に進んでいる姿が見えたことです。多分、案内してくれた方々と直接話が出来たり、地元の話の話を聞けたりして、そうした活動が見えたからでしょう。陸前高田や大槌でも、住民の方と親しく話せば、きっと希望の萌芽が見えたのでしょうが、行きずりのものにはそれが見えなかったのかもしれませんが。

今回の東北被災地支援旅行はとても充実していました。それだけに余計に、被災の実情がわかり、本当に被災地や被災した人は、もとの生活に戻れるのか心配になってしまいます。手助けするのも、せいぜいお金や物資を細々と送るだけで、こちらの迷いも深くなってしまいます。でも、知り合った地元の人とのつながりを大切にすること、忘れないこと、見てきたこと、感じたことを語り続けるのが大切なのだと、心から思います。

エネルギーを持ち続けるために、年に 2 回は、このような旅を企画したいものです。

【自習クラスで、エスペラント語の 10 分授業をする堀泰雄さん】

堀 泰雄

horizonto@water.sannet.ne.jp

371-0825 群馬県前橋市大利根町 2-13-3

電話：027-253-2524

木彫りの兎を持って

陸中海岸を訪ねて＝唐丹小学校編＝



浅野 富治

男 (石川県金沢市)

この旅の主たる目的となった唐丹小学校には入学式の当日、唐突に伺うのは失礼と思い、前日の午後 3 時頃、小学校を

訪ねることにした。

小学校は釜石市街地より 10km 程南下した所の唐丹湾にある小白浜と云う漁村にある。小白浜は平地部分は少なくすり鉢状になった漁村を大津波は襲った。海辺にあった小学校は3階まで浸水して廃

【木彫りの兎を廊下に飾る浅野 富治男さん】 校となり、中腹にあった中学校は津波は免れたが地震による被害で使えず、両校とも中学校の校庭に仮設校舎が建てられてあった。

棟続きの両校は戸 1 枚で仕切られてある。私は訪問した理由を伝え、新任したばかりと云う両校の校長に木彫りの兎を届けた。

小学生、全生徒数 65 名（内、新入生 11 名）。去年は 124 名いたそうだから約半数が転校を余儀なくされたのだろう。津波による生徒の「犠牲はなかった」と聞き、「ホッ」とはしたが津波は友達を引き離してしまった。

入学式当日。校舎前で会う約束をしていた高館先生と一緒に式場に入った。会場となった中学校の体育館は幸い難を免れたらしく立派な会場だ。

私は少し気恥ずかしい思いで、支援者の 1 人として高館先生の後に付いて参席させて頂いた。「入学式とは何と素晴らしいものなんだ！」自分自身や我が子の時と違った思いで、第三者として見る入学式に心が打たれた。

温かい拍手の中、新入生 11 名が担任の先生の後から元気に入場して来た。一人一人の名前が呼ばれる度に元気な返事が広い体育館に響く。生徒代表の歓迎の挨拶も立派だった。

「この子達は、あの大地震、大津波を体験し、余震やその後の非日常な生活を乗り越えて来たんだ」。校歌の二題目に

“荒波 ときに 寄するとも 不屈の心 ゆるぎなし” とある。

この先、どんな苦難に出合うとも、この子達はきっと乗り越えられるだろう。子ども達の元気な姿こそ「未来の希望だ」と感じた式典であった。

式が終わり、教室に戻った生徒達にオス、メス一対の兎が渡される手筈になっている。他に展示品として作った兎を廊下のテーブルに並べ生徒達に見て貰った。

「喜んで見ていましたよ。」2 日後撤収した時、校長先生からその様に云われ、一つの目的が達せられた思いがしたのだった。

他に幼稚園、老人福祉センター、公民館と高館先生との縁で唐丹の町に三百個余りの兎達を渡すことが出来た。



【7月1日から7月31日までの支援者 20名 通帳記帳通りの表記で記載】

谷田裕子、菊池定則、松岡喜美子、村山代利子、太田茂子、右原君江、齋 巖、阿部敏幸、池田りょう子、宮城英子、高木健一、匿名、内山武、橋口成幸、高木道子、堀 泰雄、堀 玉江、高館千枝子、井上和江、伊藤富美子

【募金に寄せて】

私は遅ればせながら最近になって、高館さんの活動を知りました。息長い、地道な援助を続けておられる由。本当に頭の下がる思いが致します。私も参加させていただきたく、少額ですが送らせて頂きました。これからも月一回程度のペースで続けたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。(匿名)

＝一緒に被災地に寄り添ってくださる事に感謝いたします。高館千枝子＝

【支援金振込み先】 郵便口座 記号：18390 番号：13087781 高館千枝子宛

【お知らせ】①支援物資を受け取り、必要な方に配ってくださるボランティアの住所。

支援ツアーで地元ボランティアをしてくださる方と出会いました。皆様の真心や励ましを物資と共に送り、唐丹町の方達を勇気付けていただきたいです。

★〒026-0041 岩手県釜石市上中島町 3-4 上中島仮設住宅 27-4 柏山セツ (TEL:0193-25-3378)

★〒026-0041 岩手県釜石市上中島町 3-4 上中島仮設住宅 28-5 佐々木政代 (TEL:090-3369-2093)

★〒026-0121 岩手県釜石市唐丹町花露^{しげとし}辺 127-2 下村恵寿 (TEL:0193-55-3031)

★〒026-0121 岩手県釜石市唐丹町大石字向 54 大石仮設住宅 1-1 大向惣三 (TEL:090 2367 6084)

- ・ 食料品が一番嬉しいです。(日持ちする食料品、各地のスイーツ、コーヒーやお茶などの嗜好品等)、生ものはチルド便であれば大歓迎！特に肉類、加工品等は歓迎。
- ・ 衣類であれば半袖より七部袖のTシャツ、サマーセーター類(女性)、長袖Tシャツ(男性)。
- ・ 洗剤、石鹸、ティッシュ、シャンプー、リンス、タオル(大・小) シーツなどの日用品。

〈物資支援者：清原順子、松岡喜美子、佐藤ひろ子、高館千枝子〉



②「唐丹 116 人の子ども支援ツアー旅行」の感想を7月から10月まで随時掲載。

③「唐丹だより」の開設。

「無事津波記憶石」に刻まれた、子ども達全員のメッセージと唐丹町の方から寄せられたメッセージを掲載します。皆様の感想をお待ちしております。

④「唐丹町 116 人の子ども支援ツアー」の写真集(CD-R)を希望者にお分けします(送料込¥1,500)

東日本大震災教育支援プロジェクト

EEC 通信 27 号

2012 年 7 月 31 日発行